

パパが育休ってすごいこと！？



岩井 大知

附属特別支援学校
教諭

産休・育休取得期間
約1ヶ月

(2021.11 - 2021.11)

出産

2021.10 (第1子)



【育休に入るまで】

妻が妊娠したと分かったのは2月下旬でした。年度末で忙しい時期でもあったので、高等部主事にのみ報告、校長や教頭に報告をしたのは忙しさが少し落ち着いた4月上旬に行いました。夫である私が職場に報告するタイミングは迷いましたが、子供が産まれたら育休を取得したいと前々から考えていたため、安定期に入る前ではありましたが、早めに職場に報告をしました。育休を取得したい旨を相談したのは6月の初めです。まずは高等部主事に相談、その後、教頭→校長という流れです。職場に男性育休の経験がある方はいなかったですが、手続きは女性の方が取得するのと大きくは変わらないため、管理職や事務の方が丁寧に教えてくれました。

夏休み明けの8月下旬、1ヶ月育休を取得することを学部の先生に伝えました。担任をする生徒の保護者には、10月の懇談会の機会に直接お伝えし、その後生徒に伝えました。

10月23日に妻が出産。私の担任している学級には高等部副主事（担任外）が入ってくださることになっていたため、引き継ぎをして1ヶ月間の育休に入りました。

【育休に入ってから】

育休中は無給のため、育児休業給付金が支給されました。（知識はありませんでしたが、書類の書き方等は事務の方に教えていただきました。）

初めの頃は、夜も一緒に起きてミルクを作ったりオムツを替えたりしていました。しかし、妻も私も眠くて共倒れしそうだったため、私は夜寝て、日中に買い物や食事の準備、掃除、洗濯などの家事全般や、市役所や職場での手続きを担当、妻は身体の回復に努められるよう、日中寝られるときに寝てもらうことにしました。

【育休が明けて】

予定通り12月1日から職場復帰しました。娘をお風呂に入れるのは続けていきたくったため、なるべく早く帰宅しようと心掛けていましたが、難しいことも多々ありました。職場に復帰すると育休中と比べて娘と一緒に過ごせる時間はもちろん減るので、育休を取得して1ヶ月間、娘の成長を間近で見るのができて良かったです。復帰後も妻に一つ一つ確認しなくても自分で家事をすることができたのは、育休を取得して娘のいる生活の一日の流れを知れたからだと思います。

【最後にひとこと】

新型コロナウイルス感染症の影響で9月に予定されていた現場実習が延期となり、育休の期間と被ってしまいました。私が巡回指導や反省会に出席できないことを生徒や保護者の方にも理解していただき、周りの先生にも協力していただいたおかげで生徒は無事に実習を終えることができました。周りの方々の協力があったことで、大変感謝しています。第一子だったため、子育てに関しては私も妻も悪戦苦闘しながらあっという間に1ヶ月は過ぎてしまいました。短い期間ではありましたが、育休を取得して家族で過ごした時間は大変貴重なものでした。少しでも多くの男性のみなさんに育休を取得していただき、この貴重な体験をしていただきたいと思います。

現在は娘が1歳になり少しずつ歩き出そうとしています。これからも娘の成長が楽しみです。

妻より

私の実家が県外であること、元々里帰りはせずに夫婦で子育てをしたことから、今回夫に育休を取得してもらいました。「何するの?」と思われる方もいるかもしれませんが、私は「してもらったこと」よりも「見てもらったこと」に大きな意味があるように思います。産後のボロボロの身体、新生児との暮らし、家事の多さ...など。最初の1ヶ月を見るのと見ないので大きな違いがあったのではないかと思います。おかげで私は娘の世話と自分の身体の回復に専念できて夫の育休終了後も元気に育児ができています。今は、「すごいねー!」「珍しいねー!」と言われることが多い男性育休が当たり前の世の中になっていくことを願っています。